

人間の安全保障を考える(2)

－茂木敏充外務副大臣をお迎えして－

開倫塾

塾長 林 明夫

林 明夫：おはようございます。開倫塾の塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聞きいただきありがとうございます。今週の開倫塾の時間は、先週に引き続きまして、外務副大臣の茂木敏充先生をお招きをして、お話を聞かせていただきたいと思います。先生、よろしくお願い致します。

茂木敏充外務副大臣：こちらこそ、おはようございます。また今週もよろしくお願い致します。

林 明夫：先週はイラクの現状というお話をしていただいたんですけども、今週は日本の果たすべき役割、それについても教えていただければと思います。よろしくお願い致します。

茂木敏充外務副大臣：先週私が見てきたいくつかの場所を紹介させていただいたのですが、例えば病院についても、日本が造った病院がたくさんイラクにはあるんですね。そこでの機材が動かなくなっている。現地の責任者にも話してきたのですが、こういう分野は日本がきちんとやりますからね、やっぱり日本の機材とかいろんなノウハウが入っているということは、できる分野が多いなと思いました。これはおそらく国連の機関、UNDPとか、WHOとか、そういうところと協力をしながら、病院の修復というのはやっていけると思うんです。それから、学校。イラクには、小学校が8000校くらいあります。そのうちおそらく5000校位を修復をしていかなければならない。こういうことで、学校の建物の修復も必要です。行ってきますと、子供たちがですね、文房具を持っていないんですね。ですから文房具を、ユニセフと一緒に提供する。イラクの子供100万人にそういうものを日本政府としてプレゼントしていきたいなと、そう思っています。せっかくですから、そういう文房具を入れて、袋に日の丸をつけて、それでアラビア語で、日本の国民からのプレゼントですとか、子供が分かるような、本当に目に見える支援というのをやっていきたいなと思っています。

林 明夫：他に人道援助等としてどんなものがあるのでしょうか？

茂木敏充外務副大臣：人道復興援助にもいろいろな分野があります。先週は治安が悪いというお話をしたのですが、もう一つ大きな問題というのは失業率の高さなんです。なかなか統計もきっちり取れるような状態じゃないのですが、現地で国連の職員の人に聞きますと、おそらく失業率は7割～8割じゃないかと。就業率じゃなくて失業率の方が……。ですから、10人のうち働いているのは2人か3人、こういう事ですから、残っている人達が働けるような環境を作ってあげるとい

とも大切だと思います。

林 明夫：そうですね

茂木敏充外務副大臣：当面ですね、一つ考えている事があります。これは、アフガニスタンで非常に成功したんですけれど、例えば道路のがれきを拾ったり、ゴミを掃除したりとか、建物の簡単な修復をすると、そんなに技術を持っていなくてもできるような作業をやってもらうというプロジェクトがあるんですね。

1日の日給がアフガニスタンの場合は2ドルでも本当に嬉しいとお聞きします。こういう形で、おそらくイラクにおいても5ドル以下でできるんじゃないかなあと。500～600円ですね、それで自分達にとっては日々の生活、家族を養っていくのに十分だと。こういう仕事を大体3万5千人ぐらい、日本として提供したいと思っています。

林 明夫：街もきれいになりますものね。

茂木敏充外務副大臣：ええ。それでやり方なんですけれど、例えば、道路200メートルがれきの掃除をしたら、その両側に日本の国旗と国連の旗を立てて「あ、この区間は日本と国連が一緒になってやっているんだなあ」と、こういうことが分かるかたちでやっていきたいと思っていて、また、Tシャツも作りたいなあと思っているんです。日本のジャパンというマークが入って、それで作業をやっているイラクの人達にそれを着てもらって、それこそ日本がやっている、ということが分かるような、そういう事一つ一つがやっぱり目に見える支援、こういう事になっていくんじゃないかなあとと思っています。

林 明夫：今まで目に見えなかったですね。

茂木敏充外務副大臣：ええ。それから12年前の湾岸戦争の時は13億ドル、ですから1兆円以上のお金を日本は拠出したんですけど、お金だけ出してもという事でありあまり感謝をされなかったんです。今回今決めている対応は、大体1億ドル未満です。それでもずっとありがたがられているんですよ。

林 明夫：価値があるわけですね。

茂木敏充外務副大臣：やっぱり、現地を誰かが見て、どういう所に本当に必要なものがあるのかと、学校だ、病院だ、それから雇用だと。こういうことを私は見てきましたから、それをきちんとやっつけていけば、額は少なくともイラクの国民からも喜んでもらえる。同時に国際社会からも評価されると。こういう支援になるんじゃないかなと思っています。

林 明夫：本当に、茂木副大臣が実際に行っているおかげで仕事ができるわけですね。

茂木敏充外務副大臣：小泉総理もブッシュ大統領とテキサスのクロフォードというところにある牧場で、二人で10時間に渡って対談したんですけれども、そこの中で、私のバグダットの出張も踏まえまして、日本をこういう分野、今言ったような学校や病院や電力とかやっていますよね、そういう話をさせて頂いて、非常にブッシュ大統領も、そういう援助は良いねと、こういう事で評価をし

て頂いて、自分としても、ちょっと危険でしたけれど、追いはぎが出るとか、それでも行ってきて良かったなあと、こんなふうに思っています。

日本も今後外交の新しい柱として、一つは平和の定着。そしてもう一つが人間の安全保障。こういうことを大きな柱というか目標に掲げているんですね。その平和の定着というのは、これはイラクもそうですし、それからアフガンもそうですし、インドネシアもアジアもそうですし、どうにか戦闘状態が終わった、内乱が終わった。しかし、新しい形で平和が戻ってきてもこれが定着できるように色んなプロジェクトをやっていかなくちゃならないと。こういうことが一つですね、今後の柱になってくると思います。

それから、もう一つは、今まで安全保障と言いますと、国の安全保障ということだったんですけど、これからは、一人一人の世界に住んでいる人達、子供達、女性、そういう個人に注目した安全保障ということも考えていかなくちゃいけないのではない。そうすると例えば地雷の除去の問題であったり、色々身のまわりに危険が及ぶ事に対してそれを防止したりそういう対策を取っていく。これは日本としては2つの大きな柱として今後外交展開していきたいと思っています。

林 明夫：有り難いですね。最後に先生、栃木県の方々にもう一度メッセージか、一言お願いしたいのですが。

茂木敏充外務副大臣：先週はメッセージとして「長くイラクについて関心を持って下さい」と、こういう話、それからもう1つ、「自分の身近なところからできることを考えてみて下さい」と、こういう話をさせて頂きました。わざわざ実際にイラクに行けるような状況じゃないんですね、危険を伴いますから。外務省としても渡航は延期して下さい、とこういうことはあるのですが、イラクには色んな文明もあります。メソポタミアであったりとかバビロンであったりとかですね。やっぱり、日本の歴史にも通じるような所があるなど、こういう事でありまして、文明の対話というそういう、もう一回歴史の教科書でも紐解いてもらったりして、もう少し身近に国を感じてもらおうと、こういうことが有り難いかなと思っています。

林 明夫：今日は先週に引き続きましてお忙しい中外務副大臣の茂木敏充先生にご出演頂きました。

先生、どうもありがとうございました。これからもご活躍をお祈りしています。

茂木敏充外務副大臣：こちらこそ宜しくお願いいたします。